

標準的なモデルの戸別受信機の仕様書例 の作成に係る実態調査の結果

平成29年12月6日
事務局

◆ 調査対象

平成27年度に戸別受信機を配備した市町村（472団体）のうちの50団体

◆ 調査内容

- ① 防災行政無線の整備に係る調達仕様書の実例の収集
- ② 調達の状況（調達方法、調達範囲、仕様書の検討・作成期間）
- ③ 担当者の所感（仕様書の作成で苦労した点、仕様書例への要望）

◆ 調査時期

平成29年 9月～10月

◆ 回答率

46団体/50団体

調達仕様書に記載されていた主要要件

2

- ◆ 代表的な戸別受信機の機能（表1の1～13）のうち、「音声受信」、「緊急一括呼出」、「録音再生」、「停電時対応」、「乾電池動作時間」、「乾電池種類」、「外部アンテナ接続」は、80%以上の団体が記載していた。
- ◆ 標準的なモデルで想定している要件（表1の黄色部分）のほとんどは、80%以上の団体に記載していたが、「選択呼出」は55%、「サイレン・ミュージック」は13%だった。
- ◆ 親局・子局・戸別受信機の相互接続性は、40%の団体に記載していた。

表1 調達仕様書に記載されていた主要要件と記載内容等

回答団体数:40（他に仕様書未提供が6団体）

番号	要件	記載例	記載団体数(%)
1	音声受信	親局設備(操作卓)からの音声放送の受信	40(100%)
2	緊急一括呼出	緊急時に受信機の音量を自動で最大に調整	40(100%)
3	選択呼出	一括呼出、グループ呼出、個別呼出	22(55%)
4	録音再生	放送内容の録音再生機能を有すること	35(88%)
5	停電時対応	商用電源から内蔵乾電池への自動切替	38(95%)
6	乾電池動作時間	24時間以上(放送5分/待受け55分の条件)	34(85%)
7	乾電池種類	単一型、単二型、単三型が使用可能	37(93%)
8	外部アンテナ接続	外付けのアンテナが接続可能	39(98%)
9	外部スピーカ接続	外付けスピーカが接続可能	14(35%)
10	外部機器接続	外付けのFAX、文字表示器等が接続可能	6(15%)
11	サイレン・ミュージック	サイレン音・ミュージック音の受信	5(13%)
12	文字表示	文字情報を液晶ディスプレイ等に表示	3(8%)
13	聴覚障害者用ランプ	周囲の空間を照らす照明	9(23%)
14	親局・子局・戸別受信機の相互接続性	異製造者の機器との互換性もしくはARIB STDの明記	16(40%)

調達範囲及び方法の状況

- ◆ 戸別受信機を含む防災行政無線システム全体で調達した団体が83%だった（図1）。
- ◆ 調達方法は、最も多かったのが「一般競争入札方式」、次が「指名競争入札方式」、その次が「随意契約（プロポーザル方式）」だった（図2）。
- ◆ 戸別受信機だけを別途調達する場合は、「随意契約（プロポーザル方式）」が最も多かった（図2）。

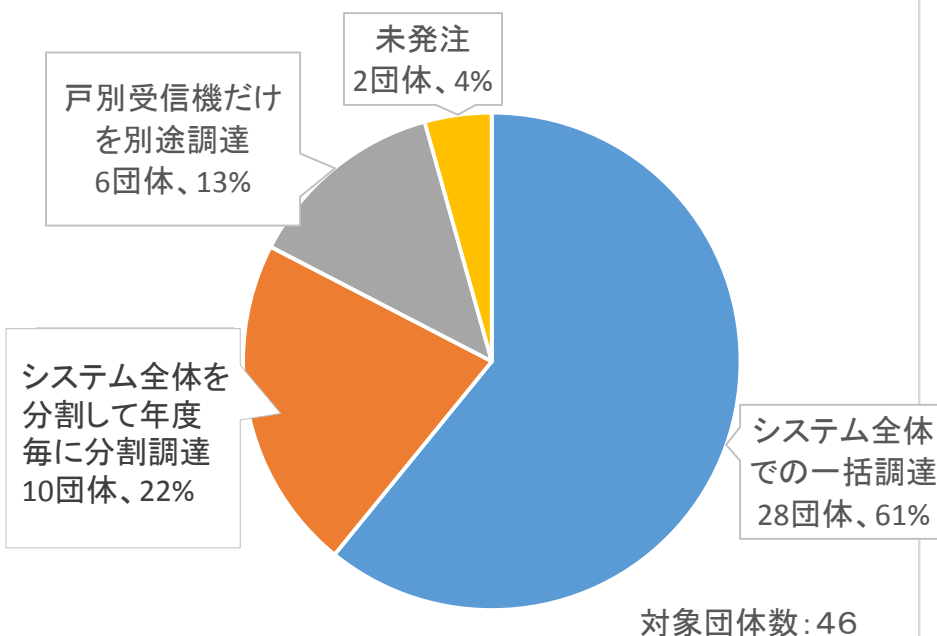


図1 調達範囲の状況

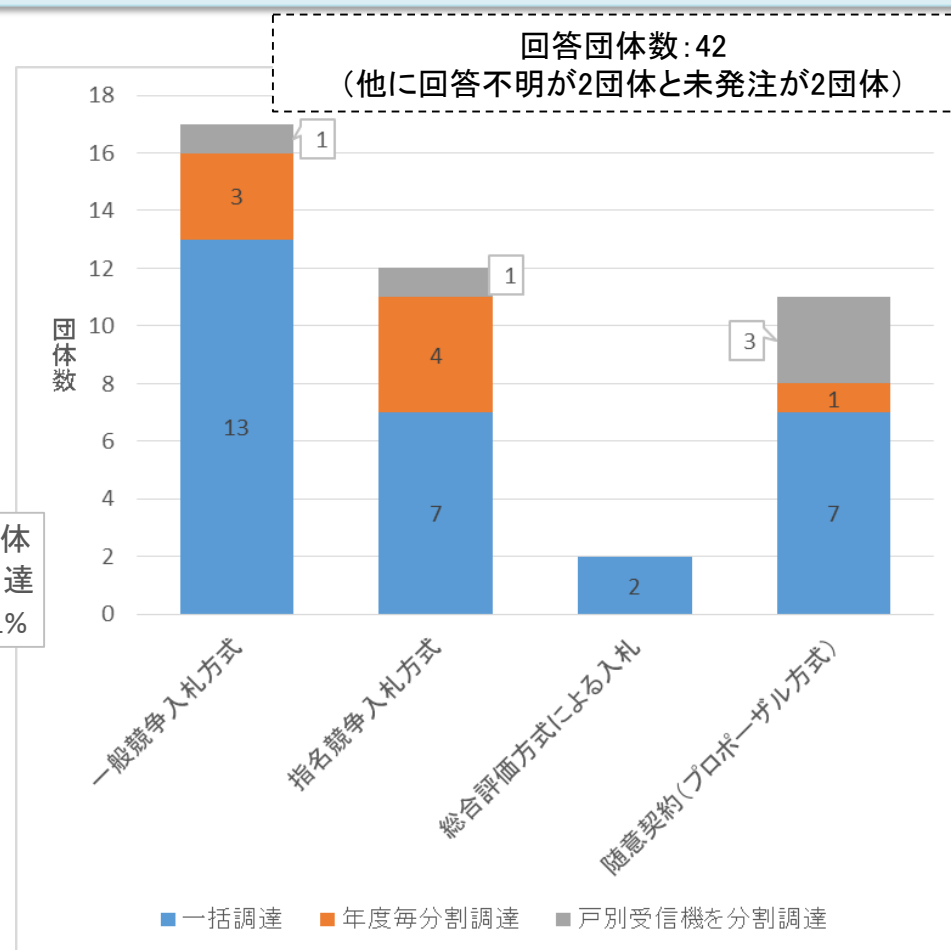


図2 調達方法の状況

調達仕様書の検討・作成期間の状況①

4

- ◆ 仕様書の検討期間について、最も多いのは3～6ヶ月間であった（約42%）ほか、6ヶ月超が約24%だった（図3）。
- ◆ 仕様書の作成期間について、最も多いのは1～3ヶ月間であった（50%）ほか、3ヶ月超が約26%だった（図4）。
- ◆ 戸別受信機だけを別途調達する場合は、検討期間は3ヶ月以下が75%、作成期間は1ヶ月以下が75%だった（図3、4）。

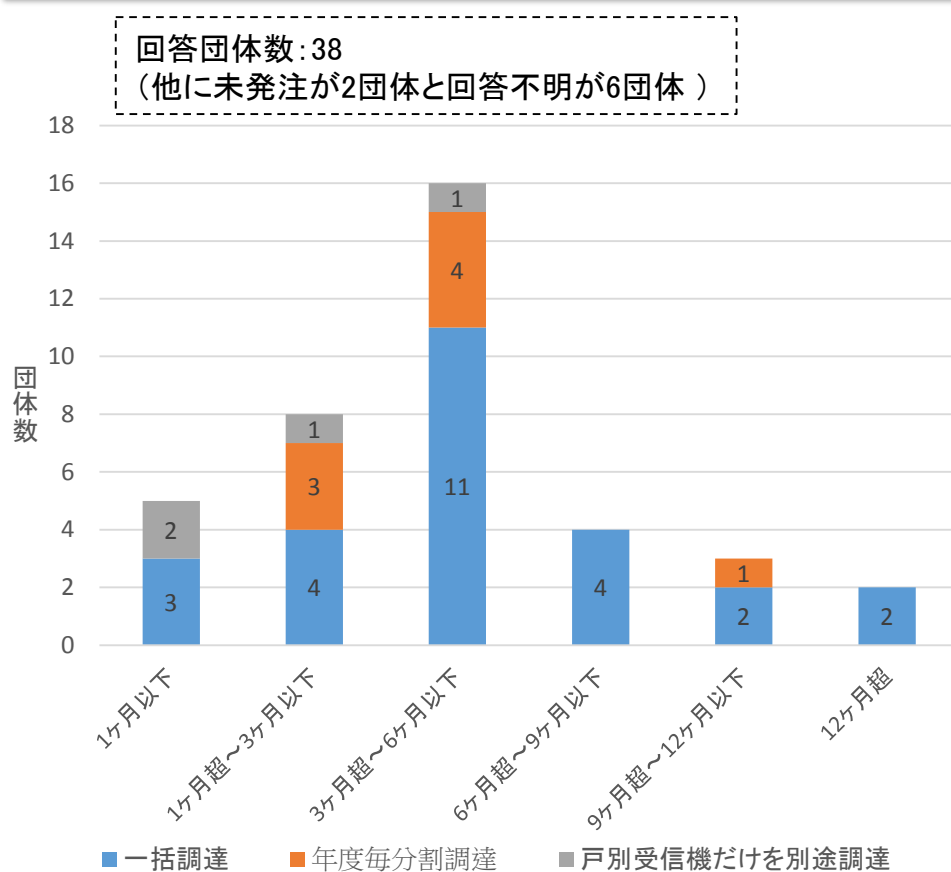


図3 調達仕様書の検討期間の状況

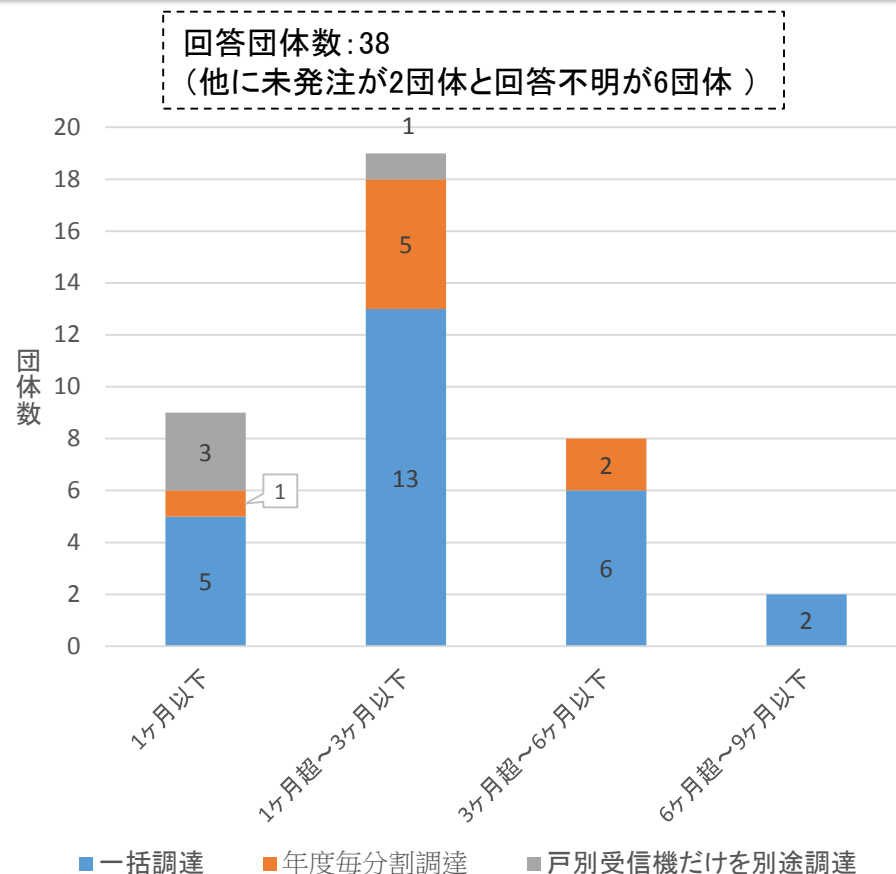


図4 調達仕様書の作成期間の状況

◆ 調達方法により仕様書の検討・作成期間が長くなったり短くなったりすることは特段なかった（図5、6）。

回答団体数：37
（他に未発注が2団体と回答不明が7団体）

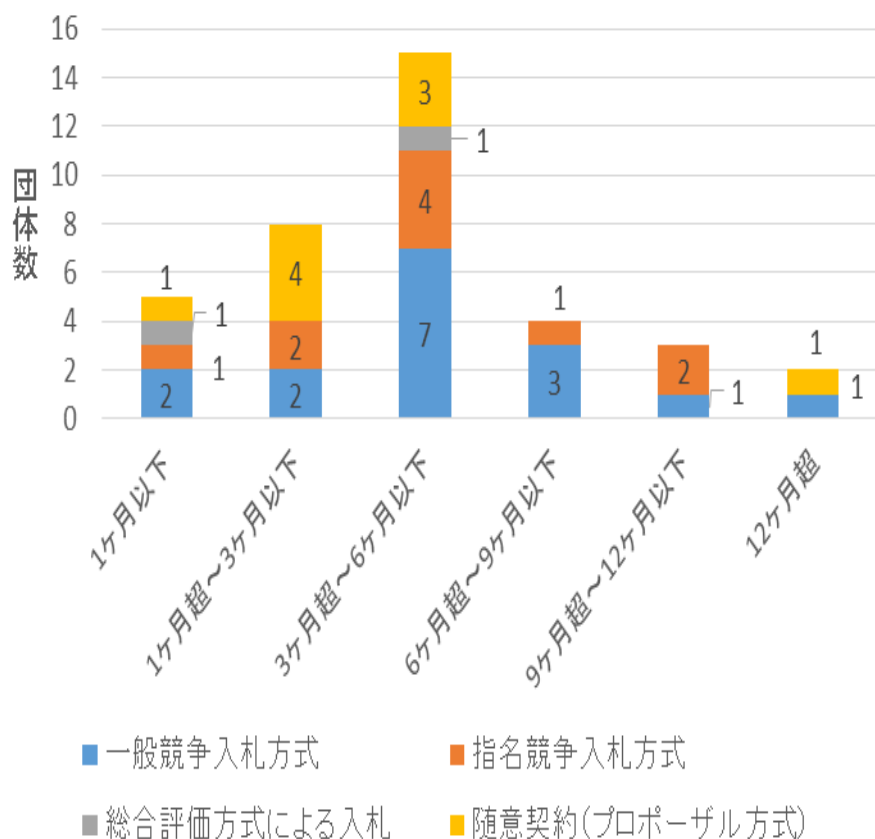


図5 調達仕様書の検討期間の状況②

回答団体数：37
（他に未発注が2団体と回答不明が7団体）

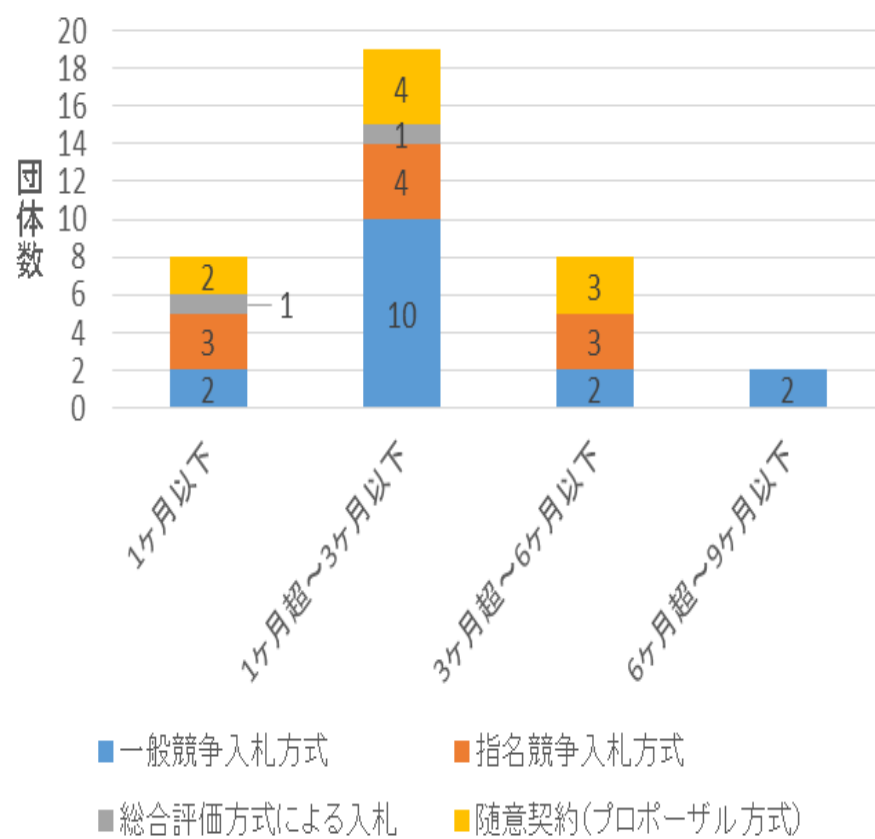


図6 調達仕様書の作成期間の状況②

市町村担当者が調達仕様書の作成において苦勞した点

6

- ◆ 半数以上の団体が「機能・仕様の必要性の判定」や「専門用語や無線システムの理解」に苦勞したと回答した（表2）。
- ◆ 苦勞した点によって、仕様書の検討・作成期間が長くなったり短くなったりすることは特段なかった（図7）。

表2 苦勞した点の分類

回答団体数:37(他に無回答が9団体)

(※複数回答あり。)

番号	項目	回答例	回答団体数(%)
1	機能・仕様の必要性の判定	事業者から提案のあった内容について、本当に必要なものかどうかなかなか判断がつかなかった。	20(54%)
2	専門用語や無線システムの理解	無線や通信等に関する専門用語、システム体系を理解するのに時間を要した。	20(54%)
3	戸別受信機の単価設定の判定	各業者が扱う戸別受信機自体の性能が多様化しており、戸別受信機1台当たりの適正金額の判断が難しかった。	2(5%)
4	中継局設置場所の特定	中継局の位置選定に労力を費やした。	2(5%)
5	戸別配信の手法	同報無線の戸別受信機、FM方式、アナログ変換方式、V-lowマルチメディア、そして本市導入予定の280MHz帯戸別受信機等、その方式や費用、補助率・起債対応などが多様化しており、どの方式を導入するか時間を要した。	2(5%)
6	その他	整備後の維持管理費等についても一緒に検討したので時間がかかった。	9(24%)

回答団体数:37(他に無回答が9団体)

(※複数回答あり。)

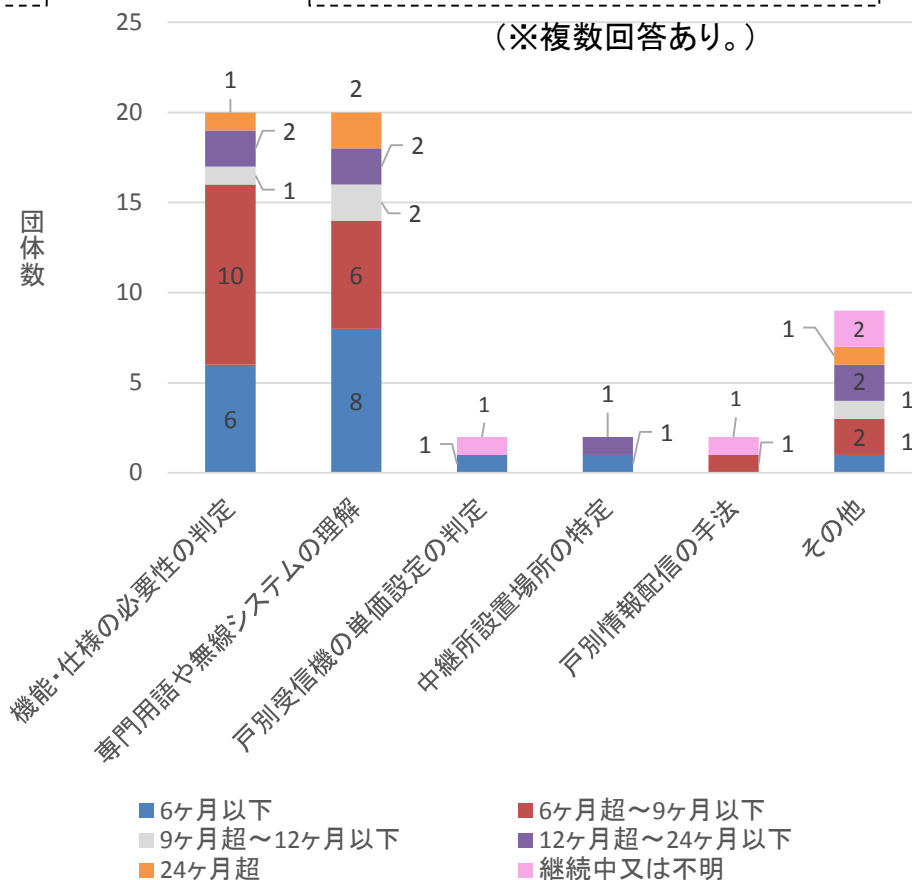


図7 「苦勞した点」と「調達仕様書の検討・作成期間」の関係

仕様書例に対する市町村担当者の要望

7

- ◆ 約半数の団体が「専門用語の解説」や「地域の実態を踏まえた対応が可能となるような配慮」を要望していた（表3）。

表3 仕様書例に対する市町村担当者の要望の分類

回答団体数: 31 (他は無回答が15団体)

項目	回答例	回答団体数 (%)
専門用語の解説	専門用語には解説を入れて欲しい。	16 (52%)
地域の実態を踏まえた 対応が可能となるような 配慮	標準的なモデルの戸別受信機を整備するうえで、各団体の実態を踏まえた対応が可能となるよう、本当に必要なもののみを記載して欲しい。	15 (48%)
機能の取捨選択	標準的なモデルの戸別受信機を整備するうえで、戸別受信機として最低限搭載しなければならない機能を明確に決めて欲しい。	7 (23%)
業者間統一仕様	一部のメーカーに偏らない仕様になるような例を示してほしい。	2 (6%)
その他	・低価格な戸別受信機になるよう望む。 ・既存設備との連携が必要であったが、その連携方法を検討するのに時間を要した。 ・山間部の電波状況をカバーするのにコストがかかるため、その対応についての記載があれば助かる。 等	6 (19%)